

第 26 回健康スポーツ部会における主な意見

<議題（1）令和 5 年度スポーツ実施率調査の結果について>

- スポーツに「する」「みる」「ささえる」方の割合を、今回新たに図で示しており分かりやすい。生活満足度とスポーツ実施率の因果関係は解釈が難しいので、経年変化を追うことで、幸福感との因果関係が明らかになると考える。

- スポーツ実施率は必ずしも伸びているわけではないが、オリンピック・パラリンピックが高まった要因として考えられ、障害者であればパラリンピックをきっかけに環境整備が進んだことも考えられるが、考察があれば教えて欲しい。

<議題（2）Sport in Life ガイドブック（案）について>

- 現場では様々な取組がなされており、障害者スポーツ分野でも活用できる。横のつながりに関する内容もあったが、点で実施されていることが線で結ばれると良い。他方で、ガイドブックを見て、連携も重要だが、まずは点で実施されることも重要だと感じた。障害者スポーツの取組は、一般にも活用できるので、更に展開できていくと良い。

- 現場で工夫されていることが非常によくわかるので、ガイドブックの展開の仕方が重要。

- 障害者パートの導入部分で、「一般に比べて隔たりがある」とあるが、一般の 52%までは伸びると思うものの、伸びているという評価もして良いのではないかと。また、一般は 52%で伸びていないが、健康経営は数値が伸びていることを踏まえると、運動機会の増加だけでは不十分だと感じる。どうすれば無関心層に働きかけることができるか、改めて検討できると良い。

- 視察に行ってみてはじめて実感できることが多くあった。例えば、連携できているといってもその深さは異なるし、構造を担保しているものも様々である。新しいアイデアを生かしていく組織風土も重要だと感じられた。通常の事例集では、そういった点まで掘り下げられていなかったが、現場視察をしたことで良いガイドブックになっている。今後課題解決方策等を広げる仕組みが重要。

- ガイドブックはどこから見れば良いか分かりやすく、また事例のみならずコラムなどの知識を掘り下げる内容があるのも良い。取組事例がライフパフォーマンスのどの局面に寄与するかを、今後アップデートして行けると良い。

- 現場を見て現場の方の話を聞いたことは参考になるとともに、ガイドブックを見れば、自

分が実際に行けていないところの取組や意見も伝わってくる。ガイドブックで 8 つの区分でまとめられている課題解決方法は、今後部会でさらに深掘りしていけると良い。

○小さな基礎自治体でも活用できるような、体系立った整理ができる。健康づくりや体力づくりを含めて、スポーツの重要性は増しているが、実施率は高まっていない。今年はオリンピックイヤーなので、「する」「みる」に加え、「ささえる」立場の方たちも多く巻き込めると良い。

○見やすく、様々な取組があることを実感できる。継続性が課題になっている現場も少なくないが、それを乗り越えようとしている団体も多い。ガイドブックをどのように届けるかが重要であり、スポーツに取り組もうとする主体に届けられると良い。図書館や地域の医師会など、ガイドブックに載っているところには何らかの形で届けてはどうか。大学や教育機関にも配布して活用してもらえると良い。

○アイコン化の工夫をはじめ、視覚的にも見やすくなっている。厚生労働省の健康日本 21 とのすみ分けも、コラムで差し込んで分かりやすい。「終わりに」でまとめているが、課題も多くあるので、ガイドブックを活用して課題解決をした事例が今後生まれれば、スポーツ庁でもぜひ拾ってほしい。

○最後に課題解決策がまとめられているが、民間団体はどういうところと連携した、障害者分野はどういうところと連携した、女性分野ではこう連携したなど、もう一歩分かりやすくなると良い。

○タイトルで「Sport in Life」とあるが、「はじめに」の中で出てこないのも、冒頭で触れた方が良い。「SIL」というワードも浸透させたいのであれば、紹介してはどうか。

○事例の中で、「運動」、「スポーツ」、「運動・スポーツ」という表記について、精査して書かれていると思うが、改めて確認をお願いしたい。また、アイコンのマークで、スポーツ関係団体がサッカーのマークになっているが、特定の競技団体で良いのかは悩ましいので、問題ないか検討してほしい。どう活用されていくかが大事なため、関係ないと思われるための仕掛けも必要。

○日本の中で探していけばいくほど、良い事例が多く眠っていることを感じさせられる機会になった。実際に見ると温度感も違う。今後の期待としては、眠っている取組について、現場自らが紹介してもらいたいという事例があれば、それを積み上げていけるような掲示板のようなものがあると良い。学ぶべき見るべき事例が眠っているので、多くの方の目

に留めてもらえると良い。

- 目次のアイコンはアクセスしやすく、コラムや取組事例を含め、存在を知った人に見てもらえるものになっていると感じる。来年度以降の取組として、課題解決方法に対する考察がまとめられているので、全国の自治体で活用できるよう、スポーツ庁の施策に落とし込んでいくことも重要ではないか。情報発信の支援を行うなど、環境づくりにつなげるために、スポーツ庁が何をなし得るかも検討できると良い。
- 作った後にどのように知ってもらい、利用者や自治体の方々に取り組んでいただくかが重要。SPORTECでは、毎年4万人もお越し頂いているので、ぜひこういった場の活用も検討いただきたいし、協力させていただきたい。
- 対象ごとに分かれており、色分けもビジュアルになっていて分かりやすい。参考資料も分かりやすく、第3期スポーツ基本計画の復習にもなる。全国の素晴らしい事例や取組については、せっかくこのようなガイドブックのフォーマットが決まっているので、ガイドブック掲載募集をかけて、この部会で評価をし、ブラッシュアップしてはどうか。
- 三島市では、スマートウェルネスが関係する課すべてが連携し、生涯の健康づくりに取り組んでいる。スポーツ無関心層や障害者向けの施策にも取り組み、スポーツを通じて健康になってもらう、楽しんでもらうことを心がけている。後期高齢者の医療費等が課題となる中、スポーツを通じた健康づくりに取り組むことは重要であり、ガイドブックを活用して取り組んでいきたい。
- 周知の具体策としては、県に通知すれば県から基礎自治体に行くと思うが、スポーツ部局にしかいかない懸念があるので、健康部局にも届くように、具体化して案を示せると良い。また、首長に届けるために、全国市長会や町村会の協力も借りてはどうか。
- ガイドブックがどのくらいのユーザーに活用されたか、県などを決めてフォローアップするとともに、その際ユーザー側のニーズを聞くことで、今後改訂する場合はより活用できるものになると考える。
- スポーツ実施率に関して、シンガポールは長寿の国でスポーツ実施率は70%ある。次のステップとして、国内のみならず世界で進んでいるところについて調査し、比較しても良いのではないか。

＜議題（3）ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進について＞

- 先端技術を活用した実証事業は、具体的にどのようなことに取り組む予定か。研究づくりとともに、成果も見られるようにしてほしい。

- スポーツに関する効果的な指導を推進するためのツール等の作成・提供の事業に関しては、職場で活用できる目的を持った運動について、単に「運動しましょう」ではなく、職場環境や生活環境に応じて具体的にどのような運動が効果的か示す予定であり、間もなく作成が終了し公表予定。働き盛りの方に訴えかけられるようにしたい。

- ライフパフォーマンスについては、委員会で哲学的な議論がなされており、様々な専門性を有する委員が様々な意見を出して概念形成をしている。自分の状態を感知してアクションにつなげることで、それぞれのニーズに合った運動・スポーツの推進につながると考えるので、今後の応用に期待している。

(以上)